

幼児の「きれい」に関する美意識の発達 —「美しい」、「清潔な」、「整然とした」を中心に—

田中 敏明^{*1}・松島 暢志^{*2}・関戸 ひとみ^{*3}・内賀 良香^{*4}

^{*1}九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

^{*2}福岡こども専門学校非常勤講師 福岡市博多区博多駅東1-16-31 (〒812-0013)

^{*3}筑紫幼稚園 大野城市横峰2-2-18 (〒816-0973)

^{*4}神理幼稚園 北九州市小倉南区徳力5-10-10 (〒802-0974)

(2016年11月10日受付、2016年12月8日受理)

要 旨

本研究は、幼児の美意識のなかでも代表的な美意識である「きれい」を取り上げ、美しい、清潔な、整然としたという3種類の美意識の成立と幼児の特性を実験的に検証するものである。3歳後半から6歳前半の幼児を対象に、きれいな色、きれいな花、きれいな(汚れた)軍手、きれいな(乱雑な)本棚を提示し、色と花についてはきれいと思うものおよび好きなものを、軍手と本棚についてはきれいと思うもの、汚いと思うもの、好きなものの選択を求めた。きれいな色、好きな色は金、ピンク、銀が多いが、好きな色はきれいな色に比べて分散すること、きれいな色と好きな色は一致しない幼児が多いこと、好きな花でも同様の傾向が認められること、清潔に関する美意識は3歳児でも約半数が成立しており、5歳以上はすべての幼児が美意識を確立していること、整然に関する美意識は清潔よりも約1年遅れて成立し、乱雑を好む幼児もいることなどが明らかにされた。この結果をもとに、保育者は幼児の美意識や言葉理解に留意したうえで日常的な言葉かけや指導を行う必要があることを指摘した。

キーワード：幼児の美意識 きれい 清潔 整然

研究の背景と目的

保育の営みの中で、保育者は幼児の発達を踏まえたかわりを行わなければならない。できるだけ幼児が理解できる言葉を用いるとともに、わからない言葉については、具体的な事物や事象を提示しながら、体験を通して言葉の意味を伝えていく必要がある。保育の世界では、幼児がその言葉の意味を理解しているものとして説明や伝達を行うことが少なくない。その言葉の意味が分かっていない場合には、保育者は伝えつつも、幼児には保育者の真意が伝わらないことになる。そのような言葉の一つに「きれい」がある。「きれい」は、保育の中で比較的良好に使われる言葉の一つである。きれいという言葉には多様な意味が含ま

れているが、その主なものは次のとおりである。

美しい＝きれいな色、きれいな花、きれいな景色

整然とした＝きれいに片づいた部屋、きれいに並ぶ

清潔な＝きれいな服

美人の＝きれいな女性

澄んだ、不純物ない＝きれいな空気

これ以外にも、きれいな言葉、きれいな心、きれいな振る舞いなど、多様な意味を含んだきれいがある。この中で、保育者が保育の場でよく用いるきれいは、美しい（きれいなお花だね）、整然とした（きれいに片づいたね）、清潔な（手をきれいに洗いましょう）の3つの意味を持った「きれい」であろう。きれいなものに触れてその美しさに気づき、心を動かすことは、現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針でも保育のねらいとして設定されている。環境領域の内容(1)に「自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」、表現領域の内容(2)に「生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。」という記載がある。健康領域の内容「(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする」は、手足や体をきれいにする（清潔）を含んでおり、同じく健康領域の(8)「幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する」には、整理整頓など、場をきれいにするが含まれている。保育者は、様々な「きれい」に関する幼児の意識や概念、言葉の理解の発達について理解し、まだ育っていない場合には育てることから始めなければならない。

「きれい」という意識や概念はいつ頃からどのように形成され、きれいという言葉の意味が分かるようになるのだろうか。河辺(1952)は、小学校1年生から6年生を対象に、「あなたが1番美しいと思うものは何ですか」を尋ねている。1年生では「花」を挙げる子どもが多いが、「模様」などの人工美をあげる子どもも少なくない。また、意味不明の答えも4割程度見られる。2年生以降は自然美をあげる子どもが多くなり、4年生になると芸術美や人情美が出てくる。このことから、美しいという意識や概念は、小学校1年生の段階ではまだ明確に形成されていない子どもも少なくないことが推定される。

大西(1985)は、線画に対する幼児のきれい意識と実際に描く線画との間にはある程度関係があることを明らかにしているが、幼児の美意識の特性や成立過程には言及していない。津守式乳幼児精神発達診断法—3才～7才まで—津守、磯部(1965)では、「きれいなものを見ると、きれいだと感心する」の発達標準年齢は36ヶ月となっている。津守、磯部(1965)の記録によれば、「部屋のまえに、赤い花が咲いているのを見つけて、「きれい」としばらく、息をつめて、じっとみている。(3才2学期)などの様子が観察され、きれいと感じる幼児は、男児は3才で60%をこえ、3才半で90%をこえる。女児は、3才半で90%をこえる。この以前には、ものを自分の思うように、いじったり使ったりすることし

か考えなかったが、ここでは、ものを美しいとみる余裕と、美的感覚ができていいる」という。田中ら（2000）は、保育者への聞き取り調査をもとに、3歳から6歳までの幼児の行動の目安となる時期を示している。それによると、「花を見てきれいと言う」は年少クラスの2学期ごろ、「身近にあるきれいなものが言える」は年中クラスの1学期ごろ、「紅葉した葉を見てきれいと言う」は年中クラスの2学期ごろとなっている。

これらのことから、3歳児でも「きれい」という意識が存在しているということが想像される。しかし、これらの結果は実験的に明らかにされたものではなく、上記の「きれい」の対象は美しいという意味に限定された赤い花だけが対象になっており、「整然としている」、「清潔である」などの意味は含まれていない。幼児を対象にした「きれい」意識や概念の実験的な研究はこれまでほとんど行われておらず、発達心理学や児童心理学の教科書にも「きれい」意識や概念については記載されていない。

そこで本研究では、3歳から6歳の幼児を対象に、保育中によく使われるいくつかの「きれい」のなかから「美しい」、「整然としている」、「清潔である」の3つを取り上げ、それぞれに対する幼児の「きれい」意識の特徴や概念成立の様相および「きれい」と「好き」との関係を実験的に検証する。

方 法

1. 実験の時期：2015年11月下旬から12月下旬の約1ヶ月間

2. 対象者および人数

幼児：F幼稚園、A保育園、D保育園の3園の年少、年中、年長クラスの幼児。3歳児（3歳7ヶ月～3歳11ヶ月）41人、4歳児（4歳0ヶ月～4歳11ヶ月）101人、5歳児（5歳0ヶ月～5歳11ヶ月）113人、6歳児（6歳0ヶ月～6歳8ヶ月）79人の計334人（男児184人、女児150人）。

大学生：男性25人、女性25人の計50人。

3. 実験方法

午前中の自由遊びの時間に一人ずつ別室へ移動し、被験者と実験者が一対一で以下の4つの質問を1人3分程度で行った。1週間の間をおいて同じ質問を再度繰り返した。

①きれいな色・好きな色：14色の折り紙（赤色、桃色、オレンジ色、黄色、茶色、黄緑色、緑色、水色、青色、紫色、白色、黒色、金色、銀色、色の位置はランダムに入れ替える）を提示し、一番きれいだと思う色、一番好きだと思う色の順に質問し、それぞれ選択させた。

②きれいな花・好きな花：上記14色の中から現実にある花の色9枚の花の写真（オレンジ色、黄色、赤色、桃色、水色、青色、紫色、白色、緑色）を提示し、一番きれいだと思う花、一番好きだと思う花の順に質問し、選択させた。ここで使用した花の写真の背景はすべて黒色で統一し、オレンジ、黄、赤、桃、水、青、白はガーベラ、紫はトルコキキョウ、緑は四つ

葉のクローバーである。

③きれいな軍手・好きな軍手：5つの軍手（左から「きれいな軍手」・「汚れている軍手」・「きれいな軍手」・「汚れている軍手」・「汚れている軍手」の順に並んでいるもの）を提示し、きれいだと思う軍手はどれかを質問し、選択させた。次に、別の5つの軍手（左から「汚れている軍手」・「きれいな軍手」・「きれいな軍手」・「汚れている軍手」・「きれいな軍手」の順に並んでいるもの）を提示し、汚れていると思う軍手、好きだと思う軍手の順に質問し、それぞれ選択させた。

④きれいに整頓された本棚：5枚の本棚の写真（左から順に上段に「汚い本棚（本が乱雑に入れられた本棚）」・「汚い本棚」、下段に「きれいな本棚（本がきちんと入れられた本棚）」・「汚い本棚」・「きれいな本棚」の順に並んでいるもの）を提示し、きれいだと思う本棚はどれかを質問し、選択させた。さらに別の5枚の本棚の写真（左から順に上段に「きれいな本棚」・「汚い本棚」、下段に「汚い本棚」・「きれいな本棚」・「きれいな本棚」の順に並んでいるもの）



図1. きれいな軍手と汚い軍手



図2. きれいな本棚と汚い本棚

を提示し、汚いと思う本棚、好きだと思う本棚の順に質問し、選択させた。写真の本棚は、実験を行ったそれぞれの保育園、幼稚園で幼児が実際に使用している本棚である。

大人との選択傾向の違いを見るため、大学生100人にも色と花について同じ手順で選択を求めた。

結果と考察

1. きれいな色・好きな色

表1は、今回の実験の対象とした3歳から6歳の幼児が、「きれいな色」、「好きな色」として選んだ2回合計の数を色別に示したものである。幼児が、14色の折り紙の中から「きれいな色」として一番多く選択した色は金色であり、2回合計で301人と半数近くが金色を選択している。以下ピンク（107人）、銀（102人）、赤（29人）、紫（27人）、青（23人）という結果であった。1回目、2回目共にほぼ同様の傾向を示している。幼児の「きれいな色」

の1回目の選択について χ^2 乗検定を行った結果、 $\chi^2(13)=425.78$, $p<.01$ で有意な偏りが見られた。ライアン法による多重比較の結果、ピンク、金、銀を、有意に他の色より「きれい」と回答していることが示された。

このことから、幼児の多くが金色や銀色などのきらきらした色や赤、青などの原色をきれいと感じる傾向があることがわかる。大学生の選択を見ると、水色、白、金色、黄色、青、オレンジなどが上位を占め、幼児とは異なる様相を示している。

表1. 幼児が選択したきれいな色、好きな色 (2回合計)

	きれいな色	好きな色
金	301 (45.1) ①	119 (17.8) ①
銀	102 (15.3) ③	57 (8.7) ③
赤	29 (4.3) ④	57 (8.7) ③
黄	14 (2.1)	30 (4.5)
青	23 (3.4) ⑥	45 (6.7) ⑦
緑	5 (0.7)	33 (4.9)
ピンク	107 (16.0) ②	99 (14.8) ②
オレンジ	10 (1.5)	12 (1.8)
茶	5 (0.7)	2 (0.3)
水	17 (2.5)	33 (4.9)
黄緑	9 (1.3)	22 (3.3)
紫	27 (4.0) ⑤	57 (8.5) ⑥
白	6 (0.9)	7 (1.0)
黒	21 (3.1) ⑦	69 (10.3) ⑤

きれいな色やきれいな花の場合、きれいな軍手やきれいな本棚のような一般的、客観的なきれいの基準がないため、きれいという言葉の意味が分かり、概念が確立したうえで選んだ結果なのかどうかは、はっきり断定することができない。今回は、1週間の間隔を置いて2回選択させており、1回目と2回目の選択の一致度を見ることによって概念がどの程度確かなものとして形成されているかを推測することができると思われる。

表2からわかるように、1回目と2回目の選択が一致している幼児は3歳から5歳まではいずれも

半数以下であり、6歳になってようやく6割を超える。このことから、きれいという言葉の意味(美しい)は3歳でも理解しており、きれいなものを選択することはできるが、その概念は不安定であることが推測される。

表2. 「きれいな色」1回目と2回目の一致

	3歳	4歳	5歳	6歳
一致	18 (43.9)	35 (34.7)	50 (44.2)	51 (64.6)
不一致	23 (56.1)	66 (65.3)	63 (55.8)	28 (35.4)

表3. 「好きな色」1回目と2回目の一致

	3歳	4歳	5歳	6歳
一致	12 (29.3)	31 (30.7)	29 (25.7)	26 (32.9)
不一致	29 (70.7)	70 (69.3)	94 (74.3)	53 (67.1)

幼児の好きな色は、きれいな色と同じく金、ピンク、銀、赤などが多く選択され、上位7位まで入る色はきれいな色の選択と一致する。 $\chi^2(13)=762.87$, $p<.01$ で有意な偏りが見られた。ライアン法による多重比較の結果、赤、ピンク、黒、金を、有意に他の色より「好き」と回答していることが示された。ただ、きれいな色の選択のように金、ピンク、銀に集中するのではなく、選択が多くの色に分散している。1回目と2回目の選択の一致度を見ると(表3)、3歳から6歳まで年齢差はほとんどなく、いずれの年齢も30パーセント前後で低い値を示している。このことは、好きな色については、幼児期全体を通して好きな色がはっきりしている幼児は少数であり、多くの幼児は選択ごとに好きな色が変わる可能性があることを示唆している。表4からわかるように、きれいな色と好きな色が2回とも一致する幼児はすべての年齢で10パーセント以下である。 χ^2 乗検定を行った結果、 $\chi^2(13)=65.42$, $p<.01$ で有意な偏りが見られた。残差分析の結果、ピンク、オレンジ、黄色、茶色、黄緑、水色、紫、白に関しては、「きれい」と「好き」の回答傾向に差がないことが示された

表4. きれいな色、好きな色の選択の一致度

	A	B	C
3歳	4 (9.8)	2 (4.9)	35 (85.4)
4歳	3 (3.0)	10 (9.9)	88 (87.1)
5歳	4 (3.5)	16 (14.2)	93 (82.3)
6歳	7 (8.9)	24 (30.4)	48 (60.8)

A: きれいな色と好きな色が2回とも一致
B: きれいな色と好きな色が2回のうち1回一致
C: きれいな色と好きな色が2回とも不一致

2. きれいな花・好きな花

表5は、今回の実験の対象とした3歳から6歳の幼児が、「きれいな花」、「好きな花」として選んだ2回合計の数を色別に示したものである。幼児が、9色の花(写真)の中から「きれいな色」として選択したのはピンクであり、1回目、2回目の合計で135(20.2%)人が選択している。以下青(18.7%)、水色(15.6%)、赤(10.8%)の順である。きれいな花の選択対象にはきれいな色で幼児の多くが選択した金と銀が含まれておらず、その結果多くの色に選択が分散しているが、オレンジや白はあまり選択されない。幼児の第1回目の選択について χ^2 乗検定を行った結果、 $\chi^2(8)=16.00$, $p<.05$ で有意な偏りが見られた。ただしライアン法による多重比較の結果では、どの色の花の回答も他の色を有意に超えるものは見

られなかった。

学生の場合、「きれいな花」として一番多く選んだ色は青で、全体の32%を占め、以下水色(24%)、赤(18%)、白色(10%)の順であり、幼児と比べると青・水色系と白が幼児より多く選択され、ピンクを選ぶ大学生は全体の4%で非常に少ない。一方、好きな花については好きな花と大きな違いはなく、青が1位、ピンクが2位と順位が入れ替わるが、上位5位まではきれいな花と一致している。1回目と2回目の選択の一致度を見ると、きれいな花、好きな花ともに年齢による大きな違いはなく、きれいな花で32.7%(5歳児)から41.6%(4歳児)、好きな花で21.8%(4歳児)から31.9%(5歳児)であり、全体的にきれいな花の一致度が好きな花の一致度に比べてやや高いものの、すべて50%以下である。色と同様に、花においても、幼児期全体を通してきれいな花、好きな花がはっきりしている幼児は少数であることがわかる。きれいな色、好きな色、きれいな花、好きな花のなかではきれいな色の安定度が最も高くなっている。

表5. 幼児が選択したきれいな花と好きな花(2回合計)

	きれいな花	好きな花
赤	72 (10.8) ④	91 (13.6) ④
黄	50 (7.5)	63 (9.4)
青	125 (18.7) ②	111 (16.6) ①
緑	53 (7.9)	65 (9.7)
ピンク	135 (20.2) ①	102 (15.3) ②
オレンジ	19 (2.8)	25 (3.7)
水	104 (15.6) ③	97 (14.5) ③
紫	71 (10.6) ⑤	80 (12.0) ⑤
白	25 (3.7)	33 (4.9)

表6. きれいな花の選択の一致度

	一致	不一致
3歳	14 (34.1)	27 (65.9)
4歳	42 (41.6)	59 (58.4)
5歳	37 (32.7)	73 (67.3)
6歳	32 (40.5)	47 (59.5)

表7. 好きな花の選択の一致度

	一致	不一致
3歳	12 (29.3)	29 (70.7)
4歳	22 (21.8)	79 (78.2)
5歳	36 (31.9)	77 (68.1)
6歳	23 (29.1)	56 (70.9)

表8. きれいな花、好きな花の一致度

	A	B	C	
3歳	3 (7.3)	4 (9.8)	34 (82.9)	A: きれいな花と好きな花が全ての選択で一致
4歳	3 (2.7)	4 (3.5)	94 (93.1)	B: きれいな花と好きな花が2回のうち1回一致
5歳	7 (6.2)	11 (9.7)	95 (84.1)	C: きれいな花と好きな花が2回とも不一致
6歳	5 (6.3)	9 (11.4)	65 (82.3)	致

きれいな花と好きな花の選択の一致度についても算出してみた(表8)。きれいな花と好きな花が全ての選択で一致するのはいずれの年齢においても10%以下であり、幼児にとって、きれいと思う花と好きな花とは異なることがわかる。大学生の結果でも、きれいな花と好きな花の一致度は18%に過ぎず、好きな花は単にきれいと感じるかどうかではなく、形、大きさ、過去の記憶など様々な要因で決定されることが推測できる。

3. 清潔な軍手—汚れている軍手

表9は、「きれいな軍手」「汚い軍手」を正しく選択した幼児の比率を示したものである。この結果から、3歳児では半数強の幼児が正しく選択し、4歳児では正答率が8割を超え、5歳児になると全員が正答するようになることがわかる。 χ^2 乗検定を行った結果、 $\chi^2(9)=36.28$, $p<.01$ で有意な偏りが見られた。残差分析の結果、3歳で、きれいのみ一致、汚いのみ一致、不一致が多く、5歳のどちらとも一致が多いことが示された。

3歳児には、2回ともきれいな軍手は正しく選んだが汚い軍手は間違って選んだもの、2回とも、汚い軍手は正しく選んだがきれいな軍手は間違って選んだもの、2回のうち2回とも、または1回、きれいな軍手、汚い軍手ともに間違って選んだものがあり、4歳児には、2回ともきれいな軍手は正しく選んだが汚い軍手は間違って選んだもの、2回のうち2回とも、または1回、きれいな軍手、汚い軍手ともに間違って選んだものがある。このことから、清潔に関するきれい、汚いの感覚は、3歳児でもすでに形成されている幼児があり、5歳になるとほぼ確立するといえることができる。

好きな軍手については、3歳の段階からきれいな軍手を選ぶ幼児が多いが、3、4歳児の中には汚い軍手を選ぶ幼児も少数ながら存在する。5歳になると全員がきれいな軍手を好むようになる。きれいな軍手、汚い軍手の正答率と好きな軍手の回答率を比較すると、3歳児では正答率(53.7%)よりも好きな軍手できれいな軍手を選ぶ率(87.8%)の方が高いことから、「きれい」、「汚い」の意味や感覚が成立する前にきれいな方を選ぶ可能性がある。2歳～3歳前半の幼児を対象にこの辺りを検証すると興味深い結果が得られる可能性がある。

表9. きれいな軍手、汚い軍手の正答率

	A	B	C	D
3歳	22 (53.7)	7 (17.1)	6 (14.6)	6 (14.6)
4歳	84 (83.2)	9 (8.9)	0	8 (7.9)
5歳	113 (100)	0	0	0
6歳	79 (100)	0	0	0

A: 2回とも、きれいな軍手、汚い軍手を正しく選んだもの

B: 2回とも、きれいな軍手は正しく選んだが、汚い軍手は間違っ選んだもの

C: 2回とも、汚い軍手は正しく選んだが、きれいな軍手は間違っ選んだもの

D: 2回のうち2回とも、または1回、きれいな軍手、汚い軍手ともに間違っ選んだもの

表10. 好きな軍手の回答率

	A	B	C
3歳	36 (87.8)	3 (7.3)	2 (4.9)
4歳	87 (86.1)	7 (6.9)	7 (6.9)
5歳	113 (100)	0	0
6歳	79 (100)	0	0

A: 2回とも、きれいな軍手を選んだもの

B: 2回とも、汚い軍手を選んだもの

C: 2回のうち、1回はきれいな軍手、1回は汚い軍手を選んだもの

4. 整然とした本棚、雑然とした本棚

「きれいな本棚」「汚い本棚」の選択結果は表11に示した通りである。表11からわかるように、2回とも、きれいな本棚、汚い本棚を正しく選んだものは3歳児では22%にとどまり、2回とも汚い本棚は正しく選んだがきれいな本棚は間違っ選んだもの、2回のうち2回とも、または1回、きれいな本棚、汚い本棚ともに間違っ選んだものの方が多い。4歳児では2回とも、きれいな本棚、汚い本棚を正しく選んだものが半数近く(49.5%)に達するが、2回ともきれいな本棚は正しく選んだが汚い本棚は間違っ選んだもの、2回とも、汚い本棚は正しく選んだが、きれいな本棚は間違っ選んだもの、2回のうち2回ともまたは1回、きれいな本棚、汚い本棚ともに間違っ選んだものがそれぞれ存在する。5歳児になると2回ともきれいな本棚汚い本棚を正しく選んだものが8割近くに達し、6歳児では9割を超える。きれいな軍手、汚い軍手(清潔)と比べると正答率が低く、に対する美意識よりも約1歳遅く整然の美意識が成立するように思われる。 χ^2 乗検定を行った結果、 $\chi^2(9)=47.73$, $p<.01$ で有意な偏りが見られた。残差分析の結果、3歳で、どちらも一致が少なく、不一致が多いこと、4歳で、どちらも一致が少なく、汚いのみ一致と不一致が多いこと、5歳で、どちらも一致が多く、不一致が少ないこと、6歳でどちらも一致が多く、汚いのみ一致が少

ないことが示された。

保育現場では、「きれいに片づけましょう」、「きれいに整頓しましょう」などの言葉かけがよく行われると思われるが、3歳児の多くが、4歳児でも半数前後がその意味を理解していないことが予想される。

表11. きれいな本棚の正答率

	A	B	C	D
3歳	9 (22.0)	6 (14.6)	14 (34.1)	12 (29.3)
4歳	50 (49.5)	12 (11.9)	16 (15.8)	23 (22.8)
5歳	90 (79.6)	17 (15.0)	6 (5.3)	0
6歳	74 (93.7)	2 (2.5)	1 (1.3)	2 (2.5)

A：2回とも、きれいな本棚、汚い本棚を正しく選んだもの

B：2回とも、きれいな本棚は正しく選んだが、汚い本棚は間違って選んだもの

C：2回とも、汚い本棚は正しく選んだが、きれいな本棚は間違って選んだもの

D：2回のうち2回とも、または1回、きれいな本棚、汚い本棚ともに間違って選んだもの

表12. 好きな本棚の選択

	A	B	C
3歳	26 (58.5)	13 (31.7)	2 (4.9)
4歳	72 (71.3)	25 (24.8)	4 (4.0)
5歳	87 (77.0)	23 (20.4)	3 (2.7)
6歳	71 (92.4)	6 (7.6)	2 (2.5)

A：好きな本棚として2回ともきれいな本棚を選んだもの

B：好きな本棚として1回はきれいな本棚を、もう1回は汚い本棚を選んだもの

C：2回とも汚い本棚を選んだもの

この傾向は、好きな本棚の選択でも認めることができる。すなわち、好きな軍手では、3歳児でも9割近くが、5、6歳児では100%幼児が清潔な軍手を好きだと答えているのに対して、好きな本棚の選択では、3歳児58.5%、4歳児71.3%、5歳児77.0%、6歳児92.4%と年齢とともに上昇するものの、6歳児になっても100%に達していない(表12)。

以上の結果をもとに、幼児の代表的な美意識である「きれい」のうち、美しい、清潔な、整然としているの美意識の特徴は表13のようにまとめることができる。

この結果を踏まえて、保育者や保護者は次のような点に留意しながら言葉かけ、指導、援助を行わなければならない。

表13. 幼児の美意識の特徴

	美意識の特徴
美しい	きれいな色、きれいな花の選択は3歳からできる。色は金、銀、ピンクが多いが、3歳から6歳を通して半数前後の幼児はきれいな色、好きな色が確立していない。
清潔な	今回対象とした3つの中では最も早くから美意識が形成され、4歳になると清潔の美意識がほぼ確立する
整然としている	「清潔な」と比べると約1年程度美意識の成立が遅れ、6歳になっても確立していない幼児がいる。

- ・きれいな色やきれいな花の意味は3歳児でも理解していると思われるが、大人がきれいと思う色と幼児がきれいと思う色には違いがあること。きれいと感じる色は幼児一人一人であり、特に花の場合はその傾向が大きいこと。
- ・清潔＝きれい、汚れている＝汚いという感覚は、3歳児の場合は半数程度しか成立していないことから、3歳児の場合はこの感覚を確立させる経験や指導・援助に留意すること。
- ・片づいている・整然としている＝きれいという感覚は3、4歳児では未成立な幼児が多く、「きれいに片づけましょう」という意味が伝わっていない可能性があることに留意し、「出したものは元の場所に持っていきましょう」などの言葉を使いながら、片付いた、整然とした状態がきれいだという感覚を育てていくこと。

引用文献

- 津守真 磯部景子「乳幼児精神発達診断法 3才～7才まで」、p55、大日本図書、1965年
- 河辺杲 子供の美意識と技術の問題 美術教育 vol. 5 24-26, 1952年
- 田中敏明（編著） 幼稚園教育要領と保育所保育指針にそってみる幼児の園生活と成長の姿
— 3歳から6歳まで— ミネルヴァ書房 2000年
- 幼稚園教育要領 文部科学省 2006年
- 大元誠 幼児の美意識--線画の"好き"・"きれい"による選択およびその選択と描画との関連
幼年教育研究年報 (10), p15-20, 1985 広島大学教育学部附属幼年教育研究施設

Developmental changes in children's aesthetics of “*kirei*”; in terms of the meanings of “beautiful”, “clean” and “tidy”.

Toshiaki TANAKA^{*1}, Nobushi MATUSHIMA^{*2}, Hitomi SEKIDO^{*3}
Yoshika UCHIKA^{*4}

^{*1}Department of Childhood Care and Education, Kyushu Woman's Junior College
1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

^{*2}Fukuoka Child Vocational School

1-16-31 Hakataeki-Higashi, Hakata-ku, Fukuoka-shi, 812-0013

^{*3}Chikushi Kindergarden, 2-2-18 Yokomine, Ohnojoyou-shi, 816-0973, Japan

^{*4}Shinri Kindergarden

5-10-10 Tokuriki, Kokuraminami-ku, Kitakyushu-shi, 802-0974, Japan

Abstract

The current study made experiment to examine the origin and developmental change of the aesthetic of “*kirei*”, which is the typical aesthetic concept in childhood, in terms of its meanings of “beautiful”, “clean” and “tidy”. Participants (3 to 6-year-old) were shown various color of *origami* papers, various color of flower photos, clean / dirty cotton glove photos, and tidy / random bookshelf photos. Then, they were asked to choose their favorite color and “*kirei na*” (which means beautiful) color as to *origami* papers and flowers, and to choose favorite photo, “*kirei na*” (which means clean / tidy) one, and “*kitanai*” (which means dirty / random) one as to gloves and bookshelves. Results indicated followings; gold, pink, silver were chosen as the both favorite and beautiful color, the variability of favorite color was wider than that of beautiful color, 3-year-olds would establish the aesthetic of clean, 4-year-olds would establish the aesthetic of tidy but some of them prefer random, 5 and 6-year-olds would establish all of aesthetic. Based on these results, the childcare provider should speak to and instruct children, keeping in mind children's aesthetic and language comprehension about “*kirei*”.